豊岡市経済ビジョン　概要版

豊岡市経済の現状

市経済の動向

《指標の変化》 ※いずれも2022年8月時点

豊岡市総生産額（国のGDPに相当）

2006年度 3,172億円 ⇒ 2019年度*1 2,952億円（-220億円・-6.9%）

豊岡市内就業者数（豊岡市内で業務に従事）

2005年 46,828人 ⇒ 2020年 40,235人（-6,593人・-14.1%）

豊岡市事業所数

2006年 6,179所 ⇒ 2019年*2 5,478所（-701所・-11.3%）

《将来分析》 *3

2035年　豊岡市総生産額　2,944億円

就業者数　39,903人

但し15～64歳の人口は32,690人に

*1:令和元年度市町民経済計算・2005年度、2020年度データなし
*2:経済センサス・2005年、2020年データなし
*3:経済ビジョンに収録した国の統計等に基づく推計値
（岡山大学学術研究院・中村良平特任教授作成）

社会経済の変化《不確実性課題》

- 新型コロナの影響の長期化による生活の様式や価値観・消費性向、テクノロジー等の変化
- 国際情勢の悪化によるサプライチェーンや人流、為替、国家間の関係等の不安定化
- 気候変動と温暖化の加速による自然災害の頻発と甚大化
- 環境、人権・人道への社会的関心の高まりによる事業者への配慮義務の強化・制裁リスク増大

市経済の課題《確実性課題》

- 人口減によって地域内の需要（消費）が減少
  → 新たな需要の獲得や創出
- 経済活動の担い手たる経営者・従業員の減少
  → 廃業・雇用喪失・所得流出の抑制
- 社会経済の激しい変化に伴う経営の複雑化
  → 事業経営の負担やリスクへのケア

10年後（2032年度）に向けた経済ビジョンの検討

検討方針

社会経済の激しい変化に対応するべく
- 経済予測に「発想の飛躍」の視点を加える
- 検討途上で複数の未来のシナリオを作成する

これらをもとに10年後の姿を描き
「経済ビジョン」の検討を行う

具体的な進め方

①地域経済や市内企業の動向に詳しい商工団体及び金融機関へのヒアリングを実施
理論的に確実性の高い未来予測①を把握

②豊岡市内で活躍する若手経営者や従業員、学生・移住者等が参加するワークショップを開催
昨今の社会変化と主観とを織り交ぜた
発想力に富んだ未来予測②を把握

- ①と②の予測を交差させた「クロス表」を用いて複数のシナリオを導き出す手法*を導入し、10年後の豊岡市の社会経済の姿（必要とされていること）を予測する。
- 予測された内容から、10年後のあるべき社会経済の姿と実現のための取組みの方向性（＝経済ビジョン）を検討する。
- 各プロセスは、学識者の助言・監修等の元で実施する

*シナリオプランニングの手法の一つである 「未来洞察手法」の一部を導入した。

豊岡市経済ビジョンの策定

予測された10年後の社会経済の姿

未来予測①・②のクロス表から、次の様なことが必要となっている社会経済の姿が予測された。

1）固定観念の打破と新しさの受容
新しい変化（モノやコト）を前向きに受け入れ、時として先入観を改めて物事に取り組むこと

2）協力し合い変化に対処する「適応」
多様性の受容や地域・社会貢献の取組み等を通じて事業者・人・地域が協力し、変化への適応を進めること

3）地域の伝統と特色を「守る･磨く･創る」経済
伝統や特色を大切にして活かすこと、加えて新しい特色の創出にも取り組んでいくこと

4）セーフティ＆リトライの備え
困難に直面する経営者や従業者が”次を目指せる仕組み”を備えることで、チャレンジ・再チャレンジを促すこと

豊岡市経済ビジョン

10年後の社会経済のあるべき姿（デザイン）

このまちが持つ豊かなポテンシャルを再評価し、まち全体で次のことを目指す。

①社会の変化に対するレジリエンス（しなやかさ、耐性）が高まっている。

②つながり、支え合う「共に生きる経済」が広がっている。

合言葉は「We！」

まち全体で進める“取組みの方向性”

①固定観念からの脱却と新しいビジネス創出の仕組みづくり
②経済・産業の領域を超えた連携の環境づくり
③地域固有の価値（強み）の磨き上げ
④チャレンジを続けられる環境づくり